

いにしえより洛北岩倉に構えられた実相院。四季のうつろいのなか、境内の美しさとともに日々を過ごしてまいりました。門跡として、すばらしい毎日を送れることは、大変幸せなことです。おそらく歴代の門跡も同じような気持ちで、その時代を見つめてきたことでしょう。

このたびはご縁があつて、京都府京都文化博物館にて「実相院門跡展——幽境の名刹——」を開催いただきました。さらにその会期にあわせて、思文閣出版より『京都 実相院門跡』なる書籍を刊行していただくこととなりました。実相院をこのようなかたちで、多くの方々にご理解いただくことは、本当にありがたいことです。長年の夢がかなったといってもよいでしょう。これからもしっかりと門跡寺院としてのつとめを全うし、ますますの精進を重ねてまいりたいと思います。

末尾となってしまいましたが、展覧会や出版に際しましては、関係者の方々には大変お世話になりました。心より感謝いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

平成二八年一月吉日

実相院門跡 原 敬泉

実相院といえ、四季の美しさで巷に知られた門跡寺院です。春の桜爛漫から始まり、客殿板間に季節の色を映し出す新緑の「床みどり」、秋の「床もみじ」、冬の「雪化床^{ゆきげしやう}」と続き、さらに庭園から遠望する比叡山もまた絶景です。御所から移築された客殿のなかに、所狭しと埋め尽くされた障壁画は近世絵画の至宝で、まさしく京都の門跡寺院の風情をあますところなく堪能させてくれる名刹です。訪れる参拝者は、深く刻み込まれた歴史の香と織りなす自然の美に酔いしれるのです。

しかし実相院の歩みには、紆余曲折や喜怒哀楽がありました。門跡寺院という格式ある寺院には、知られざる史実が多く存在しました。本書はかかる実相院の内情について、できる限りの探求を試みた最初の研究書です。叙述については、総論と各論から構成されていて、各論では専門分野の研究者が調査研究の成果を執筆しています。なお本書は、平成二八年二月二〇日（土）から四月一七日（日）までの間、京都府京都文化博物館にて開催された展覧会「実相院門跡展——幽境の名刹——」図録としての役割も果たしています。実相院の真の姿を本書を通してご覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、本書の出版にあたっては実相院御門跡の原敬泉様、また寺院の全てにわたって差配されている代表執事岩谷泰輔様、事務局長岩谷千寿子様御夫妻には、何かと心温まる御配慮を賜りました。改めてこの場をもって御礼申し上げます。

平成二八年一月

ごあいさつ.....実相院門跡 原 敬泉 002

はじめに..... 005

カラー図版..... 007

論考..... 041

総論 洛北岩倉と実相院門跡.....宇野日出生 042

第一章 構造のけしき 貴族邸宅の遺構.....日向 進 050

第二章 空間のよそおい 門跡寺院特有の庭.....今江 秀史 058

第三章 美のしつらい 実相院の襖絵.....奥平 俊六 069

第四章 信仰のかたち 不動明王立像をめぐって.....井上 一穂 078

第五章 文事のせかい 洗練された教養・風雅な生活.....廣田 收 090

第六章 史料のかたり 中世の実相院と大雲寺.....長村 祥知 099

大雲寺力者と天皇葬送.....西山 剛 110

門跡の生活.....佐竹 朋子 125

年譜 実相院門跡..... 138

あとがき.....宇野日出生 140

洛北にたたずむ実相院。私が一参拝者として初めて訪れたのは、今から三〇年も昔のこと。本格的な調査を始めるようになったのは平成一九年からですが、なによりとつ変わらない境内の美しさが、そこにありました。

私が勤務する京都市歴史資料館の調査とは、四〇〇〇点にもおよぶ古文書の調査・研究で、その最初の成果はテーマ展「実相院の古文書」（会期平成二二年一月三〇日～四月一九日）と題して、主たる古文書類を公開しました。その後さらに調査は進み、平成二七年には中世文書三卷四一冊一八一通が京都市指定文化財となりました。

実相院に伝えられる至宝のかずかずは、建造物・庭園・障壁画などめじろおしで、いつかは総合的な展示を企画し、併せて研究成果を出版したいと思っていました。ところがその思いは、意外と早くに実現することとなりました。展覧会は京都府京都文化博物館と共催で行えることとなり、書籍は思文閣出版から刊行できることとなりました。満願となった今、ひとまず肩の荷がおりた思いです。でも本格的な研究はこれからです。しっかりと進めていきたいと思っています。

さて本書出版に際しては、特に各論執筆者の先生方や関係者の方々には大変ご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。また無理難題を快くお受けいただいた思文閣出版取締役の原宏一様、担当者としての確かな編集を遂行いただいた大地亜希子様には、ただただ感謝です。本当にありがとうございます。多くの方々が本書を読んで下さることを願って、筆を置くことといたします。

* 宇野日出生（うの・ひでお）

1955年生。國學院大學大学院文学研究科博士課程前期修了。京都市歴史資料館研究室
歴史調査担当係長。

日向 進（ひゅうが・すすむ）

1947年生。京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科修士課程修了。京都工芸繊維大学名
誉教授。

今江 秀史（いまえ・ひでふみ）

1975年生。京都造形芸術大学大学院芸術研究科修士課程修了。京都市文化市民局文化
芸術都市推進室文化財保護課主任。

奥平 俊六（おくだいら・しゅんろく）

1953年生。東京大学大学院人文科学研究科単位取得満期退学。大阪大学大学院教授。

井上 一稔（いのうえ・かずとし）

1956年生。同志社大学大学院文学研究科博士課程（後期課程）中退。同志社大学文学
部教授。

廣田 収（ひろた・おさむ）

1949年生。同志社大学大学院文学研究科修士課程修了。同志社大学文学部教授。

長村 祥知（ながむら・よしとも）

1982年生。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程指導認定退学。京都
文化博物館学芸員。

西山 剛（にしやま・つよし）

1980年生。総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程満期退学。京都文化博物
館学芸員。

佐竹 朋子（さたけ・ともこ）

1976年生。京都女子大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。柳沢文庫学
芸員。